令和6年第5回早島町農業委員会

1. 開催日時 令和6年5月13日(月)

開会時刻：10時00分 閉会時刻：11時30分

2. 早島町役場 2階第一会議室

3. 出席委員

1番 増田 利之

2番 安原 輝夫

3番 佐藤 周二

4番 林 正

5番 栗坂 一郎

6番 眞鍋 和崇

7番 佐藤 一義

8番 日笠 太(会長)

9番 原 勝

推進委員 水畑 徳子

推進委員 齊藤 啓子

4. 欠席委員

なし

5. 傍聴人数

なし

6. 議事日程

議案第14号 基盤強化法附則第5条第1項の規定による農用地利用集積計画の決定について

議案第15号 農地法第3条の規定による許可申請について

議案第16号 農地法第5条の規定による許可申請について

7. 農業委員会事務局員

事務局長 猪木 浩二

書記 上化田 圭一

書記 杉本 和也

事務局長（猪木 浩二君）

ただいまから令和6年第5回早島町農業委員会を開会いたします。はじめに会議の成立についてご報告いたします。本日は出席委員8名、眞鍋委員は遅れて来られます。農業委員会等に関する法律第27条により、在任委員の過半数の方がご出席しておりますので、本日の会議は成立しておりますことをご報告いたします。

それでは、以降の議事進行は日笠会長によりしくお願いいたします。

議長（日笠 太君）

これより議事に入ります。まず議事録署名委員の指名を行います。私の方で指名してよろしいでしょうか。

【異議なしの声あり】

議長（日笠 太君）

それでは、議事録署名委員は、4番の林 正委員、5番の栗坂 一郎委員にお願いします。

【両委員了承】

議長（日笠 太君）

それでは、日程1の議案第14号 基盤強化法附則第5条第1項の規定による農用地利用集積計画の決定についてを議題といたします。事務局、説明してください。

事務局（杉本 和也君）

議案書2ページをご覧ください。番号1について、農地の所在は早島字関当●●●●番●、地目が田、面積が1,169㎡です。利用権の種類は使用貸借権で、貸付人は玉野市田井●丁目●番●●号にお住いの●● ●●●さん、借受人は早島町早島●●●●番地にお住いの●● ●●●さんです。こちらは利用権の新規設定であり、権利の期間は令和6年6月1日から令和8年5月31日までです。位置図は3ページです。説明は以上です。

議長（日笠 太君）

ただいまの説明に関して現地確認の結果を7番 佐藤 一義委員からよろしく申し上げます。

7番（佐藤 一義君）

5月10日に現地確認を行いました。場所は●●●●のすぐ下で、早島インターの間です。この土地は毎年農地パトロールで草が生えていて、どうなっているのかという話をしていたのだが、今度は増田さんが作ることになりました。きれいに耕作されており問題ないと思います。

議長（日笠 太君）

ありがとうございます。これより質疑に入ります。何か質疑がありませんか。

【質疑応答なし】

議長（日笠 太君）

その他、ご意見等ありませんか。

7番（佐藤 一義君）

現地を見に行ったのだが、利用の期間が令和6年から令和8年ということで、普通は3年・5年・7年と聞いているが、2年と短いのはなぜか。

事務局（杉本 和也君）

3年、6年、10年というのは目安にしてもらって、双方で話が合えば何年でも問題はないです。

議長（日笠 太君）

その他、ご意見等ありませんか。

【質問、意見なし】

議長（日笠 太君）

ないようでありますので、議案第14号・番号1については承認したいと思います。いかがでしょうか。

【異議なしの声】

議長（日笠 太君）

ないようでありますので、議案第14号・番号1は承認されました。続いて番号2を議題といたします。なお、番号2から4について、5番 栗坂

一郎委員は利害関係人でありますので、栗坂委員には一時退室を求めます。

【栗坂委員退室】

議長（日笠 太君）

それでは、事務局、説明してください。

事務局（杉本 和也君）

議案書4ページをご覧ください。番号2について、農地の所在は前潟字六ノ割●●●番●、地目が田、面積が1,042㎡、前潟字六ノ割●●●番●、地目が田、面積が1,259㎡で合計2筆、2,301㎡です。利用権の種類は使用貸借権で、貸付人は早島町前潟●●●番地にお住いの●● ●●さん、借受人は早島町前潟●●●番地●にお住いの●● ●●さんであり、農地中間管理事業による貸付となっております。こちらは利用権の新規設定であり、権利の期間は令和6年6月1日から令和12年5月31日までです。位置図は5ページです。説明は以上です。

議長（日笠 太君）

ただいまの説明に関して現地確認の結果を9番 原 勝委員からよろしくお願ひします。

9番（原 勝君）

5月8日に現地確認を行いました。場所は●●●●●の東隣、新しくできた●●●の北側になります。以前はきちんと稲が植えられていて、●●●の建築時には作られていませんでしたが、別段問題はないと思われまふ。

議長（日笠 太君）

ありがとうございました。これより質疑に入ります。何か質疑がありませんか。

【質疑応答なし】

議長（日笠 太君）

その他、ご意見等ありませんか。

【質問、意見なし】

議長（日笠 太君）

ないようでありますので、議案第14号・番号2については承認したいと思います。いかがでしょうか。

【異議なしの声】

議長（日笠 太君）

ないようでありますので、議案第14号・番号2は承認されました。続いて番号3と4を議題といたします。事務局、説明してください。

事務局（杉本 和也君）

議案書4ページをご覧ください。番号3と4については近接地の案件でありますので併せてご説明します。

まず番号3について、農地の所在は前潟字久々原●●●番、地目が田、面積が2,243㎡です。利用権の種類は使用貸借権で、貸付人は倉敷市茶屋町早沖●●●にお住いの●● ●●●さん、借受人は●● ●●さんであり、農地中間管理事業による貸付となっております。こちらも利用権の新規設定であり、権利の期間は令和6年6月1日から令和12年5月31日までです。位置図は7ページです。

続いて議案書6ページの番号4について、農地の所在は前潟字久々原●●番他4筆、合計5筆で面積が5,308㎡です。利用権の種類は使用貸借権で、貸付人は早島町前潟●●●番地にお住いの●● ●●さん、借受人は●● ●●さんであり、農地中間管理事業による貸付となっております。こちらも利用権の新規設定であり、権利の期間は令和6年6月1日から令和12年5月31日までです。位置図は7ページです。説明は以上です。

議長（日笠 太君）

ただいまの説明に関して現地確認の結果を9番 原 勝委員からよろしくお願ひします。

9番（原 勝君）

5月8日に現地確認を行いました。場所は久々原の駅の北側です。昨年まで作っておられて、今年から栗原さんがされるといふことで、よく管理されて、畦なんかもきれいにされていて、周りも田んぼがあり、問題はないと思います。

議長（日笠 太君）

ありがとうございました。これより質疑に入ります。何か質疑がありませんか。

【質疑応答なし】

議長（日笠 太君）

その他、ご意見等ありませんか。

【質問、意見なし】

議長（日笠 太君）

ないようでありますので、議案第14号・番号3と4については承認したいと思っております。いかがでしょうか。

【異議なしの声】

議長（日笠 太君）

ないようでありますので、議案第14号・番号3と4は承認されました。ここで栗坂委員の入室を認めます。

【栗坂委員入室】

議長（日笠 太君）

続きまして、日程2の議案第15号 農地法第3条の規定による許可申請についてを議題といたします。事務局、説明してください。

事務局（杉本 和也君）

議案書8ページをご覧ください。番号1と2については関連する案件でありますので併せてご説明します。まず番号1について、権利の種類は所有権の移転です。農地の所在は前潟字三軒地●●●●番、地目が田、面積が3,371㎡、前潟字三軒地●●●●番、地目が田、面積が3,213㎡で合計2筆、6,584㎡です。譲渡人は倉敷市児島●●●●丁目●●番●●の●● ●●さん他19名、譲受人は早島町早島●●●●番地にお住いの●● ●●●さんであり、申請事由につきまして、譲渡人は相手方の要望によるもの、譲受人は増反によるものとなっております。位置図は10ページです。なお、本申請は譲渡人20名の所有権持分16分の15を譲受人に移転する申請となっております。

続いて番号2について、農地の所在は前潟字三軒地●●●●番、地目が田、面積が1,285㎡、前潟字三軒地●●●●番、地目が田、面積が1,412㎡で合計2筆、2,697㎡です。譲渡人は早島町前潟●●●●番地●にお住いの●● ●●●さん、譲受人は●● ●●●さんであり、申請事由につきまし

て、譲渡人は相手方の要望によるもの、譲受人は増反によるものとなっております。位置図は10ページです。説明は以上です。

議長（日笠 太君）

ただいまの説明に関して現地確認の結果を5番 栗坂 一郎委員からよろしくをお願いします。

5番（栗坂 一郎君）

5月9日に現地確認は会長が、私の方は農業機械を購入したということで、機械の確認に行きました。これは会長と同じく、町の職員と4名でいきました。倉庫にはコンバインとトラクターが置いてあり、購入したいということまでは聞いています。今年植えるということで、苗もメーカーへ頼んでいるということだが、現状を見ると、今年植えるのは難しいのではないかと。葎が腰の高さまで生えているので、対処するのは大変だろうと思います。本当に出来るのかどうか心配しています。トラクターですが、耕すロータリーではなくハローが付いていました。実際にできるかどうかと言うともう5月半ばですので、ちょっときついなと思います。ただ本人がやるというので止めることはできないかなと。農地法の第3条の中で見ると農業を行うための許可ということなので、この辺を相手方に伝えるか、もしくは念書が必要なのかなという気がしています。

議長（日笠 太君）

ありがとうございます。私も現地を見に行きました。今栗坂委員が言われたように、これで田ができるのかなと首をかしげるような感じです。その辺は申請書が出てきている以上、だめとは言いきないので、後の処理をどうされるのか役場の方で本当にふんどしを締めてかからないと、相手は何かと理由をつけて逃げると思う。本当にされるのなら、ロータリーではなくハローが付いているということは買ってきて置いているだけなのかもしれない。

4番（林 正君）

今年は無理として、今年から手入れをして、来年からは絶対植えますと。植えない場合、田んぼにできない場合は違約金とか解約するとか、念書をもって来年からは絶対しますという念書をもってから許可した方がいい。買うのは別に反対ではないが、本当にする気なのかどうか。ただ土地集めで農業しますと言って農地を買って歩いたのでは、本当の農業者ではないので念書をしておいてもらった方がいい。

議長（日笠 太君）

事務局に聞くが、今までそのような事例はあったのか。

事務局（上化田 圭一君）

誓約書に関しては、書面としていただいたとしても法的な根拠がないものになるのでそれを持って何かということは、難しいかなと思っております。林委員が言われるように、貸し借りであれば、実際一年間作っていなかったり、準備していないということであれば、それはもう貸し借りは解約していただいて、ちゃんと作れる方にお渡しいただくということが出来るかと思うんですが、今回の場合が所有権までを変えるような、3条の申請になっておりまして、所有権が変わってしまえば、それをもってなしというのは難しいと思います。

4番（林 正君）

所有権が変わっても農業をします、農地にしますという念書を書いてもらっておけば、農地にしない場合は違約金を取るとか、そういう名目で絶対に農地として管理しますというような誓約書をしてもらわないと、今の状態だったら土地集めで買っているとしか思えないから、買うことは反対ではないが農地として買うのだから農地として維持してもらわないと、植えようが植えまいがきれいにして農地として維持してくださいと言う念書を取ってもらった方が。

事務局（上化田 圭一君）

3条なので、あくまで農業をしていただくのが大前提で、申請時には本人はあくまで農業をやるために取得するという事だった。

4番（林 正君）

でも、やる気だったけど出来なくなったと言い逃れるかもしれないが、それは通らないと、絶対本人ができないなら、子でも孫でも農地として利用する。今でも草が生えたままで、あの状態を見るとあれとまるきり一緒のことになるのだからと思うから、買うことは反対ではないが、ちゃんと農地として守りなさいよと、守れない場合は罰金を取りますよとかいう新しいことをしていかないと、今でも放置みたいになっているところもちゃんとしてくれないとだめですよというような、約束をしてもらっていないと、●●さんの事だからしようと思ったけどできなくなったんだと一旦買ったならもう何にも言えないから、買って農地として、稲を植えなくても農地としてきちんと維持・管理しますということを念書してもらえば、「荒れているから草を刈れ。」と言える。今だと、するすると言ってもしないだろう。する気があるなら、葎を刈って手入れをしているはずだが、今年は間に合わないことはないが、まず難しい。

6 番（眞鍋 和崇君）

農地法の第3条の2の第2項のところに、許可の取り消しについての条文があるが、これについては賃貸借契約のみなのか所有権移転の場合も適用されるのかとお聞きしたいのだが、この農地法第3条の2の第2項というのは農地として利用しなければ許可を取り消すことができますよという項目なのだが、そういうことは可能なのであれば、そういうことが起こり得ますよということ、相手方に注意喚起ができるのかなと思うんですが、所有権移転の場合そういうことはできるのか。

事務局（杉本 和也君）

解除条件付きの農地の貸借というものでして、これは法人が農地の貸し借りをするとき、ちゃんと作れなかったら解除しますよというような条件を付けて許可をする。所有権移転はもっと重たいものですから、これを持ってというのはやはりおかしいのかなと思います。農地法3条というのはやっぱり許可してしまうと取り消すことは非常に難しいものです。林委員が言われたように次の年に耕作しなかったら罰金等したいですが、そこは弁護士の見解としても、そこまではするのは農業委員会としての違法性があるのでそこまではできないということです。昨年11月か12月にこの相談が来ていて、事務局としても本当に皆さんと同じ気持ちになりました。何とか方法はないかということで県にも相談し、県と一緒に国へ相談して今農地法の処理基準に照らして、処理基準を全部満たさないと許可できないので、何か引っかかるところはないかとか、どう整理すべきかをずっと今日まで議論を重ねてきて、その結果、今の状況だと機械もちゃんと準備されている。持っていなくてもリースでも構わない。本人も年間150日作業できると言われている。手伝いにも来てもらいながらやって行くということなので、今の条件で許可しないと、非常に訴訟のリスクがあり、「農業委員会が訴えられたら負けます。」というのは国の農地法の訴訟担当からの意見もいただいているので、今回は許可が妥当だということで上程をさせていただいた。

4 番（林 正君）

今草が生えているところは課税が農地になっているのか。

事務局（杉本 和也君）

農地です。

4 番（林 正君）

草が生えていたら税務の方が田んぼであろうと現況で課税するので、雑種地で課税されていたら、農業委員会に関係なく地目が変わられる。雑種地になっ

ていなかったらいいが、農地として課税されていたら何もできないが、今度買ったところを荒らしてしまえば、現状で評価されるから雑種地ではないかと言って課税されると、農業委員会とは関係なく雑種地から地目が変わられる。それを狙っている場合もある。絶対農地にして維持しますという念書をしてもらわないと、文句が言えなくなる。それはもう念書をもって許可するようにした方がいい。買うということは問題ないが本当に農地として維持しますということを一筆書いてもらった方がいい。それがなかったら意見ができない。もうこれは私の土地だから自由だということになる。

事務局（上化田 圭一君）

念書というのは、法的な拘束力を持たないというところがポイントになって来るかなと思います。

3番（佐藤 周二君）

それは、法的根拠がなくても意気込み示すために一筆書かせる。これは絶対できると思うんです。ましてや申請者は75、6歳でしょう。新規就農については特に農業委員会としては留意しているというあたりを含めて、どうしていくのかというのを、今年ではできなければ、来年はできる。なら今年はどうやってあの土地を綺麗にしていくのかという意気込み書を出させる必要が絶対あると思います。

4番（林 正君）

今のままで「するんだ。するんだ。」では、本当にする気とは思えない。念書を取っておかないと●●さんの事だから、大声を出してすぐ文句を言う。

事務局（上化田 圭一君）

ここは農振農用地の区域になります。町としても基本的には転用ができないところでしっかり農業をやっていっていただくエリアという位置づけがありますので、もしも違反転用といった動きがあれば早急に対応できるように委員の皆さんと一緒にパトロールしていただいている中で、おかしいなということがあればすぐ教えていただいて、事務局としてもしっかり注視していこうとは思っていますので。

4番（林 正君）

難しいことは言わずに、委員会で「念書をもったら許可します。」という風に●●さんに言えばいい。それができないのなら買ってはいけませんよと。書くと言えばそれでいいし、書かないならやる気がないので、農業委員会に対して顔が立たないし、「こういう意見があるから書かなければならない。」と言え

ば、●●さんは書くだらう。本当にする気なら。書かないと言ったらする気がないということだからすぐわかる。そのくらい厳しく言わなければいけない。やかましい奴にはもういいよと許可するのか。

6 番（眞鍋 和崇君）

おっしゃる通りだと思います。今後どのように営農計画をしていくのかということは、新規に農地を取得される訳ですから、新しく農機具を購入されて農業を始められるわけですから、これからどういう風に農業を計画されるのかということについては農業委員会に対して明らかにされたい。それはもっともしていく必要があると思います。それは法的拘束力がなくてもちゃんと、こういう計画でやって行くんだという姿勢を農業委員会に見せていただかないと、我々としても許可は出せませんよとなる。

3 番（佐藤 周二君）

年齢にこだわるわけではないが、75、6歳でしょう。本気でやるにしてもいつまでもできない。だから後継者、後をどうするのかというあたり、使用人が一人いるのかもしれないが、そこはものすごく大事だと思うんです。当面きれいに整地して来年から植えるにしても、本当の年次計画を明らかにしてもらうのもあわせて、先程の念書がらみではないが、一筆取っておくというあたり。それから農業委員会としても新規就農なので大いに注目します。いろいろ事前の資料を出してもらおうというのは、法律違反でも何でもないと思います。お互いの紳士協定というか了解事項で、前に進めるものは進めたいと思います。

6 番（眞鍋 和崇君）

許可をするにあたって、必要事項としてまず農業経営にあたっての計画書を出してもらい、それを持って農業を真摯に従事しようとしているんだなということを判断して農業委員会としては許可をしたい。第3条に基づいて許可をするための必要資料として提出を求めたいということです。

4 番（林 正君）

植えられなくても葦を刈って、耕して農地にする努力をしているというのを見せないといけない。眞鍋委員の言うように、計画書を出して今年植えられなければ来年植えるので農地として維持しますというような内容を一筆書いてもらっとかないと。農業をしてないと言ったら、自分の土地なんだから口を出すなと絶対言うだろう。もうわかっている。

3 番（佐藤 周二君）

事務局に確認するが、申請書の内容ですが、これはまともなものなんですか。

さらっと見て、違和感はないのか。

事務局（杉本 和也君）

申請書自体は必要書類等もあり、特段問題はありません。

気がかりなのが、念書とか計画書は、やるつもりなら当然出るものだと思うんですが、出ないから許可をしないというのは非常に危険だと思うんです。この会が終わった後に求めて、来月の委員会の時にご報告すべきかと思うのですが、それまでに出ないからこの許可を取り消すと言うのは・・・。

6番（眞鍋 和崇君）

取り消すではなくて、許可申請にあたっての審査書類としての提出を求めるわけですから、そういう審査書類が出なかったら許可を取り消すとか取り消さないではなくて、審査中のままになりますね。

事務局（杉本 和也君）

今日は一旦保留にして次回までに。

6番（眞鍋 和崇君）

出なければ審査中の扱いになりますね。取り消すも取り消さないもずっと審査中で扱っていくしかない。

事務局（上化田 圭一君）

今回は保留にして、添付書類が出た時点で再度審議と。

6番（眞鍋 和崇君）

保留というか、提出を求めますよという結論に至ったわけですから、提出いただいて再度審議いたしますと。認める認めないの話ではなくて、提出されるまでは基本的には審議をしますよと。提出されたら許可になる。

4番（林 正君）

本当に植える気があるなら、話が出た時点で手入れをするはずなんです。でも植える気がないから放っている。

事務局（上化田 圭一君）

それについては現地で言われていたのは、まだ所有権が変わってないから手が出せないということだった。

4 番（林 正君）

それは向こうが買ってくれと言っているなら、草が生えているから手入れすると言ったらいい。誠意が感じられない。今年植える気なら普通ちゃんと耕していないといけない。1 か月以上前に草がまだ小さいころから話が出ていた。その頃に耕しておくか、除草剤をかけておけば葦がもう低くなっているから。でもそれをせずにもう背丈ほどになるまで放っているということはもうやる気がないということだから。本当に誠意を見せてやらなければいけないということ。許可は出すけど念書をちゃんと、計画書を書いてくれないと、役場の方からも農業委員会へこうしてやれとかいうことは言えないということ。

6 番（眞鍋 和崇君）

所有権移転してなかったら田んぼに入れない訳ではなくて、譲渡人の許可さえあれば基本的には作業は始められるわけじゃないですか。

議長（日笠 太君）

本人は自分の名義じゃないから入れないという言い方をする。年だからもうできないと言ったら終わりです。

6 番（眞鍋 和崇君）

とりあえず書類を出していただいて改めて審議をするということ。

7 番（佐藤 一義君）

質問をひとついいですか。農業委員会に許可申請を出した時に、その月の農業委員会で決められなかった場合になにか法的に差しさわりがあるか。申請者に対してたとえば保留します、許可はもう 1 か月先まで待ってくださいというようなことは言えないのか。

事務局（杉本 和也君）

合理的な理由があれば問題ないと思います。早く●●さんも耕作したいから早く所有権を移転したい。本当は多分今日許可がおりるところが、延びるわけなので、所有権移転の売買契約に直結するところの話ではあるので、法定書類ではないものを求めるために今日の処分を保留するというのが、大丈夫なのかは・・・。

事務局（上化田 圭一君）

ひとつ気になるとすれば、5 月ということ結構ぎりぎり、皆さんも遅いんじゃないかと言われているタイミングだと思います。なので今回保留したことによって 1 年間耕作する時期を逸してしまったということになると、またそ

の辺りがどういう風な判断になるのかというのは懸念しているところではあります。

4 番（林 正君）

今年は植えなくても、間に合わないから来年から植えると、これからすぐ田んぼの手入れにかかります、今年は植えられないかもしれない、それでいいんじゃないか。今年どうこうではなく、ちゃんと田んぼ、農地として手入れをして維持していきますということを一筆書かせばいい。簡単なことだ。

事務局（上化田 圭一君）

あくまで私たちも農業委員会の一部ですので、それに関してもらわないと言っているのではなくて、それに対しての事務手続き上がどうかというところだけです。皆さん委員と同じ私たちも農業委員会の事務局で同じです。

3 番（佐藤 周二君）

今日の審議は審議として農業委員の面々がいまいち納得できないという中で一筆取ってもらうんです。それを出さないと言ったらもう話にならないです。

4 番（林 正君）

それを書かないと言ったらもう絶対だめだから。私は絶対やるから、いつでも書いてやると言ったらやる気だから。それをどうこう言うようなら農業委員会も許可しないだろう。やる気があるところを見せなければ。本当にやる気があるなら関係なく書けるはず。誓約書でも念書でも。何も難しいことはない。こう言うわれているからちょっと書いてくれと、私らの立場もあるから。書いてくれればすぐオッケーするよと言えば簡単なことです。難しく考えなくてもいい。

6 番（眞鍋 和崇君）

耕作時期を逸してしまったがために今年は耕作できなかった。農業委員会の許可が下りなかったがために耕作出来なかったからその分の損害補填をだせという訴訟があることを懸念されているわけでしょう。ですから今日の農業委員会でこういう決議になったから、明日にでも出して頂いたら明日集まって許可しますよということでもいいんじゃないですか。急がれるのであれば緊急に農業委員会を招集しますから急いで出してください。許可にあたって必要な書類として農業委員会で審理に出たんだと言えばいいのではないかと。

許可にあたって、農業経営農家として農業に従事できるかということについて、計画をお示しいただきたいというような意見が出たわけですから、そういう意見をそのままお伝えして、それを受けて農業委員会としては最後その許可

申請を受理する。急がれる場合は急いでも農業委員会を招集します。

事務局（上化田 圭一君）

もらうべき書類としては誓約書、今後も継続して耕作を続けていきますというような文言が入ったような誓約書というイメージですか。

3番（佐藤 周二君）

本気で農業をやりますというのが大前提でしょうね。それから今年植えられるんなら整地をする、整備計画、営農計画、向こう3ヶ年か4ヶ年の計画、そういったものが最低限いるでしょうね。今まで2反ほど土地をお持ちの様ですけど、どういう風に使われていたのか知りませんが、まあ、高齢者が新規就農するので当然求めてしかるべきものです。機械についても、先ほどから話に出ていたが、ロータリーがなくて田んぼの耕うんはできませんから。運搬用具なんかもあるのか、そういうものも最低限いると思います。そういった中身で難しい話ではないと思うんですが、本気で土地を買ってやるのなら、具体的な計画を出してくれと言えば2日くらいで出せます。

事務局（上化田 圭一君）

意思表示的な書類と、具体的な営農計画、これが1年、もしくは永続的な。

3番（佐藤 周二君）

1年ではなく3年くらいは。

事務局（上化田 圭一君）

ご本人は1年目から耕作されるつもりなんですけど、そうじゃないというところでは1年間何月には耕うんをかけるとか、年間のスケジュールとあとは何年後か実際に植え付けを行うとか。

3番（佐藤 周二君）

具体的な土地の整備計画なり、営農計画が当然いると思います。

事務局（杉本 和也君）

営農計画書とかは法定書類ではないので、出させたうえで速やかに農業委員会を開いて、もう一回みてもらうほかないかと思います。

4番（林 正君）

念書をもらったなら、連絡をくれればすぐに集まります。

なため、申請地に住宅を建築するもの。」です。位置図は14ページです。

続いて番号4について、権利の種類は所有権の移転です。農地の所在は早島字山川下●●●●番●、地目が田、面積が17㎡、早島字山川下●●●●番●●、地目が田、面積が98㎡、早島字山川下●●●●番●●、地目が田、面積が135㎡で合計3筆、250㎡で農地区分は第2種です。譲渡人は●●●●さん、●●●●さん、●●●●さん、譲受人は岡山市南区大福●●●●番地●●●●●●●●●●号室にお住いの●●●●さんと●●●●さんです。転用目的は自己専用住宅で、申請事由は「現在、夫婦と子ども2人の4人で生活しているが、家財道具が増え手狭なため、申請地に住宅を建築するもの。」です。位置図は14ページです。

続いて番号5について、権利の種類は所有権の移転です。農地の所在は早島字山川下●●●●番●●、地目が田、面積が151㎡、早島字山川下●●●●番●、地目が田、面積が28㎡で合計2筆、179㎡で農地区分は第2種です。譲渡人は●●●●さん、●●●●さん、●●●●さん、譲受人は岡山市東区中川町●●●●番地●にお住いの●●●●さんです。転用目的は自己専用住宅で、申請事由は「現在夫婦と子どもの3人で生活しているが、現在の住居が老朽化により使い勝手が悪くなったので、現住居を売却し、申請地へ住宅を建築するもの。」です。位置図は14ページです。なお、本申請は別申請中の開発許可申請と同日付で許可となりますことを申し添えます。説明は以上です。

議長（日笠 太君）

ただいまの説明に関して現地確認の結果を3番 佐藤 周二委員からよろしくをお願いします。

3番（佐藤 周二君）

5月8日に現地確認を行いました。場所は無津の交差点と●●●●との中間付近にありまして、県道庭瀬方面へつながる道の東側に面している一角であります。かねてから50戸連たん制度によりまして全体計画を明らかにした上で、順次所定の手続きを得ながら段階的に宅地開発が進められている一角です。今回は最後の3区画を農地転用するものでありまして、周辺も次第に住宅団地化しておりまして、東に休耕田がわずかにありますが、営農上さして支障がなく転用についてはやむを得ないものと考えます。以上です。

議長（日笠 太君）

ありがとうございました。これより質疑に入ります。何か質疑がありませんか。

【質疑応答なし】

なものもなく、東側手の河川の方には1.2mのフェンスを設置される。ここが資材置き場になることについては問題ないと思います。以上です。

議長（日笠 太君）

ありがとうございました。これより質疑に入ります。何か質疑がありませんか。

4番（林 正君）

止まれの標識を最近交差点の角へ立てるようになってきているので、車が曲がる時に引っかかるようになってきている。農業委員会とは関係ないが。どこが担当か知らないが。去年は反射鏡が田んぼへ入る橋の角へ立っていて田植え機が引っかかって壊れた。バックしたら引っかかってしまって、角へ立てないようにしてもらわないと困る。

事務局（上化田 圭一君）

止まれに関しては、警察が管轄になっているので調べて町からもお伝えしておきます。

議長（日笠 太君）

その他、ご意見等ありませんか。

【質問、意見なし】

議長（日笠 太君）

ないようでありますので、議案第16号・番号6については許可としたいと思います。いかがでしょうか。

【異議なしの声】

議長（日笠 太君）

ないようでありますので、議案第16号・番号6については許可されました。続いて番号7から9を議題といたします。事務局、説明してください。

事務局（杉本 和也君）

議案書17ページをご覧ください。番号7から9については近接地の案件でありますので併せてご説明します。

まず番号7について、権利の種類は所有権の移転です。農地の所在は、早島字尾越●●●●番●、地目が田、面積が72㎡、早島字尾越●●●●番●、地

ありがとうございました。これより質疑に入ります。何か質疑がありませんか。

【質疑応答なし】

議長（日笠 太君）

その他、ご意見等ありませんか。

【質問、意見なし】

議長（日笠 太君）

ないようでありますので、議案第16号・番号7から9については許可相当としたいと思います。いかがでしょうか。

【異議なしの声】

議長（日笠 太君）

ないようでありますので、議案第16号・番号7から9については許可相当と決定されました。

続いて番号10を議題といたします。事務局、説明してください。

事務局（杉本 和也君）

議案書20ページをご覧ください。番号10について、権利の種類は所有権の移転です。農地の所在は早島字畑岡●●●●番●、地目が田、面積が3.47㎡で農地区分は第2種、早島字畑岡●●●●番●、地目が田、面積が299㎡で農地区分は第3種で合計2筆、302.47㎡です。譲渡人は早島町早島●●●●番地にお住いの●● ●●さん、譲受人は早島町早島●●●●番地●にお住いの●● ●●さんです。転用目的は自己専用住宅で、申請事由は「現在夫婦と子ども2人の4人で生活しているが、高齢の母と介護のため同居することとなり、現住居を売却し、申請地へバリアフリー化した住宅を建築するもの。」です。位置図は21ページです。なお、本申請は別申請中の開発許可申請と同日付で許可となりますことを申し添えます。説明は以上です。

議長（日笠 太君）

ただいまの説明に関して現地確認の結果を7番 佐藤 一義委員からよろしくお願いします。

7番（佐藤 一義君）